

計算毒性学とリードアクロス

日本動物実験代替法学会協賛

Computational toxicology and “Lead across”**This Focused Session will be held in collaboration with CBI (Chem-Bio Informatics Society) and JSAAE (Japanese Society for Alternatives to Animal Experiments)****開催趣旨:**

化合物規制分野では「リードアクロス」の適用による化合物の毒性評価が実施されている。このリードアクロスは化合物と諸特性との基本的且つ普遍的な関係である「似た化合物は似た特性を有する」に基づいて展開される。この原理からわかるように、類似化合物の選定や類似基準の設定等で様々なアプローチがあり、この点での討論等が重要になる。赤堀先生にはリードアクロスに関する講演をお願いする。花井先生にはEUの化合物規制で極めて重要なREACHに関するご講演をいただく。湯田はWC10で発表されたリードアクロス関連の研究発表について報告を行う。最後に、参加の皆様と一緒に計算毒性学に関する様々な問題や内容等に関する討論を行う。

なお、本フォーカストセッションは日本動物実験代替法学会との協賛開催である。動物実験代替法学会では、シンポジウム「“リードアクロス”の基本と応用、現在および今後の化合物規制」で議論される。従いまして、本研究分野に興味ある方は参加されたい。

モデレーター: 湯田 浩太郎 Kohtaro Yuta

株式会社 インシリコデータ In Silico Data, Ltd.

赤堀有美 Yumi Akahori

一般財団法人 化学物質評価研究機構 Chemicals Evaluation and Research Institute

1. 「毒性予測における read-across の活用(仮)」**赤堀有美 Yumi Akahori**

一般財団法人 化学物質評価研究機構 Chemicals Evaluation and Research Institute

2. REACH における化学物質リスク評価の考え方 — データ入手を中心に**花井 荘輔 Sosuke Hanai**

花井リスク研究所 Hanai Risk Research

化学物質の安全管理には毒性だけでなく暴露の可能性等も含めた総合的な評価の枠組みが重要である。過去10年欧州で実施されてきたREACHの枠組みには、データが不足している場合の対処の方法等で、学ぶべきことが多い。REACHで求められる評価とデータ、各種の技術ガイダンス、データ入手のための工夫(予測、adaptation、定性的評価等)を概説する。さらに、多数の化学物質を評価するためにゲノムデータの活用も含むシステムが産官学の共同で提案されている欧米の最近の動向を紹介する。

3. WC10でのリードアクロス関連発表の報告**湯田 浩太郎 Kohtaro Yuta**

株式会社 インシリコデータ In Silico Data, Ltd.

WC10 (the 10th Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences) で発表されたリードアクロスに関する発表について報告する。

4. 計算毒性学関連討論

日本における計算毒性学に関する全体的な討論を行う。特にテーマは設けていないので、多くの研究者の方々からの意見や考え、質問等をいただきたく考える。